

平成21年の政権交代により、障害者福祉は大海の中に投げ出されました。ここ数年、障害者自立支援法の施行による、サービスの利用制限や利用者負担等の問題で、たび重なる制度の見直しが行われてきました。利用者への影響は勿論、事業者にとっても事務の煩雑さや、新事業体系への移行作業に伴う混乱、移行後の収入の問題等がありこの状況は現在も続いています。そんな中、国は障がい者制度改革推進会議を開催し障害者福祉の新しいあり方を検討しています。しかし、会議の構成員に知的障害関係は2名、発達障害関係者は含まれていません。この状況で新しい制度がどんな方向で出され



東京都社会福祉協議会理事・知的障害者部会会長
パサージュいなぎ 施設長 山本 あおひ

知的障害者制度改革改革に私達の声を!

黎明会だより	
No.109	
編集・発行人	明会
社会福祉	東京都小平市
黎	〒187-0032 小川町1-485
電話 042-346-6611	
http://www.reimeikai.or.jp/index.html	

るのか不安です。

私がこの仕事にあつたのは40年前の事です。山の中の入所施設が私の福祉の出発点でした。住み込みでしたが寮など無く、利用者と同じ屋根の下での暮らしでした。周りにはフェンスがめぐらされており、近くには数件の民家があるだけでした。部落の中に雜貨屋が1軒、後ろは山、前はたんぽ、春泳ぎ帰る道で乾くのでそのまま施設に戻りました。利用者はこどもから高齢の方、そして外に働きにいける方から、重い障害の方まで様々でした。施設の生活は貧しく、

あれから35年、措置制度、支援費制度、障害者自立支援法そして、(仮称)障害者総合福祉法へと障害者福祉の流れは大きく変わってきました。「措置」で与えられた福祉から、「権利擁護」「本人主体」が中心の「一人ひとりのサービスへ」と変わってきました。そして、事業者が保護されてきた時代は終わり、経営努力が求められるようになりました。しかし、現実は一人ひとりの生活は豊かになり、自分が選んだ暮らししか出来るようになつたとは言えません。制度改革は

これまで石井亮一を中心とした先人達の実践は、何もない所から知的障害者福祉をここまで築き上げた尊いものです。これを改めて、本人の立場から、時代に合わせてまいりましょう!

今年も東京都知的障害関係6団体で、第5回東京大集会開催を9月4日に開催致します。

「私達の事を決める時には、私達抜きでやらないで!」と言う本音の声と共に、家族、事業者合わせて、制度改革に声を挙げて行き

日々の暮らしと生活保護制度

東日本国際大学 福祉環境学部 准教授

あかつきオンラインブズマン 飯村史恵

100年に一度といわれる昨今の経済不況は、さらなる雇用不安を生みだし、「格差社会」を助長しており、人々の生活は一向に良くなる気配を見せていない。このような気配を見せていない。この統計が示すように、ここ数年来生活保護率は上昇を続けている。被保護世帯は、全国で今や130万世帯に迫る勢いであり、政令指定都市の大坂市では保護率51.29%を示している。しかしその方で、生活保護制度が市民に身近な存在になつていているのか、生活困窮した時に頼れる制度になつていいのかと問われれば、疑問は多々ある。例えば2007年、北九州市で男性が、生活保護の「辞退届」を提出させられ、その後「オニギリ食いたい」と書き残して孤独死に至った事件は、福祉事務所における生活保護の運用に多くの批判が寄せられ、人々に大きな衝撃を与えた。また、一般市民の生活感覚と生

活保護受給の間にある意識の壁が埋まらないという問題もある。そもそも生活保護制度は、生存権を保障した憲法に基づいた制度である。一方受給の前提として、預貯金残高や家族等の扶養可否を調査され、年金や仕送り、就労等による最低生活費を上回る収入があれば、それを差し引いた額が支給されるという制度でもある。このような制度の基本的なしくみは、残念ながら市民に正しく伝えられないことは言い難い。その結果、依然として「生活保護を受けているくせに贅沢をしている」「怠け者を公費で救済する必要はない」という厳しい見方があり、対極には「死んでも保護を受けたくない」と保護の受給を拒む人が存在していることに繋がっているのではないか。

今や貧困の日常化とセーフティネットのほころびは、一度転んだらどん底まですべり落ちてしまう「すべり台社会」(湯浅誠『反貧困』岩波新書)とまで言われている。戦後、福祉制度の中で、最も早い時期に創られた制度の一つである生活保護制度が、市民に正しく理解されず、十分機能しないままよいのだろうか。もちろん答えは、ノーである。であるとするならば、その改善のために、一体何が必要なのだろうか。

社会福祉法人黎明会には、生活保護法に基づく救護施設が一つある。私はそのうちの一つである「あかつき」において、利用者の立場で相談を受けるオンラインブズマンを担当させていただいている。個々の相談内容はさておき、利用者の生活を支える基本的な制度そのものが、現に制度を利用している人々の立場に立つて創られていないのではないかと思うことがしばしばある。しかも最近は、小刻みな制度改正が矢継ぎ早に行われ、職員の方々はその対応に追われているのが実態ではないかと思われる。

時代の変化は激しい。それに応じた制度改正は必要である。しかし、昨今の状況を見てみると、財政難を理由に、きめ細かな実態調査が真っ先に切り捨てられ、根本的な制度改革を先送りして、細かい部分の改正ばかりが行われ、その度に膨大な書類の山が積み重なり、事務作業が増え、利用者一人一人への対応にまで支障を来すという悪循環が繰り返されているようには感じられる。

施設間交流研修(係長級) に参加して

ゆとりあの郷 生活サービス課

主任 辻野京子

けやきの郷でまず驚いた事は、研修生の多さでした。いろいろな施設や学校等から、受入しているとの事ですが、忙しい中見守り、指導をしているスタッフは、素晴らしいと思いました。介護入浴は、浴室が明るく広く、入所者様の満足度が伺えました。移動もスムーズに行われ、浴室、脱衣所との連携も円滑に実践されています。

リフト入浴も拝見させていただきました。私たち施設にも是非とも欲しい機器です。

会議にも出席させていただきまし。各階からの問題点の吸い上げや、新規入居者様の情報、在入所者様の細かい情報交換もされていて、とても有意義でした。

しかし、どこの職場も同じですが、スタッフの人員がギリギリのため、アクシデントが起こった場合、スタッフの負担が大きいと感じました。よく動き、よく気が付くスタッフの姿は、とても感じ良く、私達職場も見習うべきだと強く感じました。入所者様の居住空間は、とても広々としていて気持ちが良いのですが、スタッフルームの狭さと暗さが気になりました。

最後に、お世話になりました介護課長、担当フロアの主任、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

黎明寮
支援第三係長 持田 豪

11月11日から24日の2週間、私は「けやきの郷地域包括支援センター」で施設間交流研修を行いました。初めての老健施設研修で、想像のつかない所もあり、最初は困惑する事がありました。お年寄りと接する機会があり、その温かさに触れることもでき、多くの刺

激を受けました。地域に住む人の健康維持・生活の安定・保健・福祉・医療の向上など様々な状況に応じて、総合マネジメントを行い、そこで課題の解決に向けた取り組みを行っていくことが、主な業務であることを見せていただき、地域包括支援センターの役割の重要性について知ることができました。そして小平市内の連絡会にも参加させて頂き、市の福祉課と市内の包括支援センター間で様々な問題が提示され、議論がされていました。

例えば高齢者の見守りに対する課題では、相談業務が多忙のなか、緊急対応も多く、又、出張所は殆ど1名体制で業務を行っており、緊急対応の場合には出張所を空けてしまう事がある等、様々な問題点が挙げられました。様々な課題を解決するにはやはり財源不足によるマンパワー不足の解消ではないかと思いました。

他にも高齢者の居宅訪問にも同行させていただき、一人暮らしの大変さを聞き取りの中から知ることができました。

支援センター内では、介護保険の仕組みについて、簡略したパンフレットの作成を行い、保険の仕組みについて学ばせていただきま

した。それまでは自身知識不足での医療と保険と福祉の三位一体のサービスについて、けやき

医療と介護の公開講座

のかと思っていました。市の訪問調査により、場合によつては、サービス利用が必要ないと判断され、利用できない場合もあると知りました。（介護予防事業は利用できる）。

介護サービスを利用するとして、も、細かい分類があり、介護に関わる内容・時間、それに伴う介護状態に合わせた支給限度額と自己負担金など分類が様々で、これが介護を必要とする高齢者にどう説明しても、すべて理解するのは困難ではないかと思いました。様々

な福祉制度もそうですが、はじめに制度ありきではなく、議論し合い利用者ありきで、わかりやすい制度を、作り上げていったものこそ、その制度の価値が出てくるのではないかと思ひます。

今回「けやきの郷地域支援包括支援センター」で研修して、学んだ様々なことを黎明寮でも活用していきたいです。

最後にけやきの郷地域包括支援センター所長含め職員の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

の郷で地域住民の方を対象とした公開講座「知つて安心！暮らしの中の医療・介護情報ナビ」を行い、近隣住民31名の方が出席されました。講演内容は物語形式で

①外出中、夫が突然倒れた（救急のときの対応の方法、救急車の呼び方）

②A病院で治療を開始（入院時に必要なもの、インフォームド・コンセント）

③第1回目の医療費の請求（医療費の内訳、医療保険制度）

④急性期の治療から回復期の治療へ（転院の理由・医療機能の分担）

⑤退院から退院後の生活（退院の理由、在宅での医療・介護サービス）

⑥身近な地域で受けられるサービス（黎明会の医療・保険・福祉のトータルケアネットワーク）

の順に行い、当会のサービス総合調整室のメンバーが講師を務めました。

医療保険や介護保険のしくみ、地域の住民に一貫性・継続性のあるサービスを提供する黎明会サービス調整チームの実態と活動について理解していただきました。

講演終了後も参加者の様々な質問があり、今後の私達調整チームの近隣住民に対する医療・介護サービスの提供についての使命を改めて深く感じました。

（サービス調整室 池島）

外国人と「寄り添い」～認知症考察その二～

救護施設 あかつき

社会福祉士・精神保健福祉士 小泉浩一

昨今、我が国にも多くの外国人の方が暮らしています。法務省入国管理局の統計によると、2008年、外国人登録を行っている人だけで、日本の総人口の1・74%、221万7,426人が暮らしている計算になります。また、2007年比較で、3・0%増と、年々増加している傾向にあります（現在は昨今の経済不況もあり、若干の減も予想されます）。そして、われわれが意識せずとも、こうした永住および定住する外国人の方と、「身近な隣人」として関わる機会が増えています。

ビジネスマンだけでなく、コンビニの店員さん、レストランのウェイターなど、多くの外国人の方が日本で働き、生活をしていることに驚きます。

ところで、ご存じのとおり我が国は、高齢社会をまっしぐらに歩んでいて、認知症の方を含め、要介護高齢者の増加は顕著です。認知症の方だけでも、約200万人であり、85歳以上の高齢者に限っては、4人に1人が認知症といつたデーターもあります。

このような状況において、介護人材の確保は大変重要ですが、介護職の重労働・低報酬はマスコミ報道等によって、社会にすっかり認知された感があります。そのこともあり、介護人材の確保が厳しい状況にあるのは確かでしょう。

実際、介護に関わる財政を支える「介護保険」においては事業所の経営は厳しく、優秀な介護人材をつなぎとめることが難しい状況が一部事業所ではあるようです。国は永続的な要介護高齢者の増加と、介護人材の不足を解決する策の一つとして、「外国人介護人材」の導入を決定しました。その第一陣であるインドネシア人介護福祉士候補者が日本各地の高齢者施設に着任してから、一年が経過しています。施設を利用する高齢者の認知症ケアなどをしながら、施設に着任してから、一年が経過しています。施設を利用する高齢者の認知症ケアなどをしながら、お年寄りはうれしそうに大きくなづく。おしゃべりをたたみながら、『イソガシネ』と言葉をかけると、そのお年寄りはうれしそうに大きくなづく。おしゃべりをたたむ動作には多くの場合、『私もちちゃんと働いていますよ』というメッセージが込められており、このお年寄りは自分の働きが認められていると

ありませんが、先日、朝日新聞において、考えさせられる投稿記事がありましたので、簡単に紹介します。

認知症はその症状が進むと、多くの方に見当識障害が見られ、日にち、時間などがわからなくなります。しかし、感情面（喜怒哀楽）は比較的残存していて、たとえば、生まれ故郷の生家を探して徘徊し、生家がなかなか見つからない状況に悲しくなったり、混乱したりします。こうした認知症の方に「家はもうない」と事実を教えたり、「後で送っていく」といつてごまかしたりしがちだと、投稿者は指摘します。わかっていてもこのようないい状況にあります。「重度認知症だしさの中で、インドネシア人介護福祉士候補者の姿を以下のように紹介しています。「重度認知症のお年寄りには、一枚のおしゃべりを広げてはたたみ、たたんでは広げるといった動作がよく見られる。あるインドネシア人候補者がお年寄りのペースに合わせて一緒におしゃべりをたたみながら、『イソガシネ』と言葉をかけると、そのお年寄りはうれしそうに大きくなづく。おしゃべりをたたむ動作には多くの場合、『私もちちゃんと働いていますよ』というメッセージが込められており、このお年寄りは自分の働きが認められていると

感じたであろう」とあります。それは、外国人になりつつある外国人の方の態度で、認知症の方の心を安らかにしています。人とのつながりの薄い「無縁社会」を克服するヒントが隠されているのではないかでしょうか。

【参考文献・資料】

- ・「朝日新聞」2月3日朝刊「私の視点：外国人のケア」北村育子
- ・大湯好子「患者に寄り添う聞き方・話しかけ」－ケアに生かすコミュニケーション－メヂカルフレンド社 2002
- ・川村千鶴子・宣元錫「異文化間介護と多文化共生－誰が介護を担うのか－」明石書店 2007
- ・厚生労働省老健局「高齢者介護研究報告書『2015年の高齢者介護』」2003年6月
- ・法務省入国管理局「入国管理局統計」

中学生の福祉体験学習を終えて

昨年の11月に小平市立第二中学1学年191名の生徒が黎明会の5つの施設において福祉体験学習を行いました。この度、全生徒より各施設へお礼の感想文が寄せられましたので、一部をご紹介致します。

（体験施設） 知的障害者援護施設 澄水園

1年C組 大川 紗季

私達の班は澄水園に行きました。まず最初に、知的障害者や自閉症についてお話をいただきました。その中で驚いた事がありました。まず、自閉症の方々は一つの物に集中するとそこしか見えない事です。そして知的障害の方の中には、軍手を二重にはめているみたいに、感覺がつかみづらいような手で生活している人がいる事です。もう一つは、わかりやすい言葉についてです。絵で表すことが難しい事はジエスチャーなどを加えたりしないとわかりづらい事です。この事に私は驚き、それ程大変なのに楽しそうに生活していて命の大切さを学びました。その後、施設に入居されている方と話をしました。その方はとても話していて楽しくなるような方でした。私は

もし、障害のある方を見かけたら、今回学習したように助けてあげたのです。

で、たくさん学んだことがあります。そして、将来もしもおばあちゃんやお母さんが認知症になつた時は、今回の学習を生かしてみたいと思います。

うございました。

介護老人保健施設 けやきの郷

1年B組 皆川 春奈

私は普段お年寄りと接する機会が少なく祖父母とも夏休みと冬休みに会うくらいなので、一緒にゲームをしたり、おかしを配つたりして、感謝されることってこんなに嬉しい事なんだと思いました。特に緊張してガチガチの私に話かけてくれたとき、緊張がほどけて体験を存分に楽しむことができました。また、歌を唄った時、短く練習もあまり出来なかつた「パンマンマーチ」「少年時代」でも手拍子してくれて、喜んでくれてすごく嬉しかつたです。みんながゲームをしているとき、すごく楽しんでくれて私もでも役に立てたかなと帰り道も充実感でフワフワしていました。今後もこの体験を生かせるように頑張りたいです。

特別養護老人ホーム やすらぎの園

1年A組 岡村 明文

この前はお忙しい中、ぼくたちは、ために福祉体験をさせていただきました。ありがとうございます。ぼくたちは、総合の勉強の時間で福祉施設として、あかつきの施設でお話を伺い、また体験をさせていただきました。

ぼくが印象に残つたことは、あかつきの人たちは、とても元気が良かつたことです。一緒に歌を唄つたり、ゲームをしている中でとても元気よくやっていました。周りの人たちがとても元気がよかったです。あかつきの人たちは、不思議な力があるのかなと思いました。また、もう少し沢山しゃべつて、もっと力をもらえたたらよかったです。本当にありがとうございました。あかつきの人たちは、不思議な力があるのかなと思いました。

今回の学習を通じて、これから色々な人と触れあって、困つて困る人のお手伝いをしていきたいです。本当にありがとうございました。



～やすらぎの園在宅サービスセンターにて～
カラオケ熱唱中

救護施設 あかつき

1年E組 岡村 憲亮

この前はお忙しい中、ぼくたちは、ために福祉体験をさせていただきました。ありがとうございます。ぼくたちは、総合の勉強の時間で福祉施設として、あかつきの施設でお話を伺い、また体験をさせていただきました。

ぼくは、黎明寮に行きました。皆様とお話を出来てとても楽しかったです。体験に行く前は、入居者の皆様が紙袋を作つたりされることは思いませんでした。紙袋を作る時、皆さんがとても集中していく、見ている僕たちが友達とも話ができないくらいすごい集中力でした。お話をとても上手で笑いすぎておなかがいたくなるほどでした。

救護施設 黎明寮

1年D組 上吹越 翔大

なかつたけど、とても貴重な体験ができます。ぼくは今回の学習で、たくさん学んだことがあります。そして、将来もしもおばあちゃんやお母さんが認知症になつた時は、今回の学習を生かしてみたいと思います。

＼定年を迎えて＼

法人本部 参事 太田 徹

私が黎明会あかつきに入職した昭和49年9月、小平キャンパスには、木造モルタルで平屋のあかつきと、2階建ての黎明寮と南台病院の3施設のみでした。

昭和54年3月に、現在の法人本部とやすらぎの園のサービスセンターが使用している建物が救護施設の社会復帰作業訓練センターとして竣工しました。

昭和56年8月に特養設立準備委員会が発足し、当時の佐野理事長は、当初定員50名で在宅福祉に重点を置くことを計画されていましたが、同年9月に都より最重度の認知症の人、50名を加えた100名定員の特養設置の要請を受け、南台病院の結核病棟を廃棟してもすでに社会復帰センターは竣工しております、建設予定地は非常に限られていました。そのため特養3階のご利用者はセンターの地下の浴室を使用し、特殊浴槽も同様にセンターの地下に設置することが前提となつたため、建物本体の方はどうしても回廊式にしないと収まらなくなり、入浴も隣の建物まで移動しなければならず、その結果導線が長くなり、エレベーターも

一基だけで非常に使い勝手が悪く大変申し訳ない気持ちで一杯です。都からの認知症の人の徘徊行動のための対応として、専用庭園を設置することが条件とされ、現在の澄水園の建物がある場所を作りました。

最重度の認知症の方や、障がいのある方々は、例えば健常者でも家を引っ越しすると鬱病になる方がおられます。環境が変わると問題行動が出現したり慣れるまで長い時間が必要となってきます。

平成3年、澄水園が赤羽から小平のキャンパスに移転した折は、男性は1ヶ月位で落ち着きましたが、女性の方々は落ち着くまで1年程要しました。男性はあきらめが早いのか、女性の方が人間関係が濃やかで複雑なのか、両性の違いをこれ程、如実に感じたことはありませんでした。

平成8年4月に知的障がい者授産施設のぞみ作業所に異動になりましたが、作業所は定員が25名の通所施設で、すでに満たされていました。そのため、養護学校を卒業しても行く場所が無い人が多勢出てきてしまい、本人が育った地域でそ

た時で、国も自治体も財政は逼迫していた時だったのですが、のぞみ作業所の定員を15名増やす施設整備計画書を東京都に提出しました。

都からの答えは、「小平市内には知的障がい者の施設は、澄水園あさやけ作業所、のぞみ作業所の3施設もあり、1施設もない自治体もあるのだからとても増床は無理だ」とのことでした。小平市からの答えは、「補助金は本体の建物の分のみ、外構工事の分は出せない。」とのことで、エレベーターもない施設整備計画書でした。小平市の手をつなぐ親の会の方々にも、「この計画を実現するのは非常に難しく、ダメになった場合の覚悟もなさっていて下さい。」とお願ひする程でした。

保護者の方々、地域に障がいがあつて住まわれている方、その他この件に関心のある方やのぞみ作業所のスタッフの有志で作業所増床の為の後援会を立ち上げました。それから何度も、都と協議を重ねた結果、ようやく平成11年9月国庫補助金の内示文書を頂きました。平成12年3月に竣工しました。

まま生活を続けていきたいという願いを成就することが非常に困難な状況にありました。

エレベーターも設置することが出来、後援会の資金は外構工事に充てることができました。

ふれあい短信

けやきの郷

けやきの郷
音楽・習字ボランティア
菊池 フミ子
音楽ボランティアは楽しく、おもしろい。

ピアノを演奏し、利用者と声を合わせて歌い、誘導する名人浜田さんは芸大ご出身のバリバリのプロである。彼女には中・高校の音楽教師の経験もある。加えて男女三人の助手が手伝う

がこれは音楽に無縁のただ、ただ歌うことの好きなヒバリ。でも、ただうぐいすでもなくカナリヤである。一方利用者側は「けやきの郷合唱団」のできそうな音楽性豊かな美声の集まりである。

童謡に始まり、コーラスは一度に20曲ほど歌う。小学唱歌を歌う時はみんな笑顔になる。幼な顔でゆつたり歌う。「あの友達は」と思い出もよみ返る。わらべうたになるとまりつき、手をつないだあの方たちがと思いがつのる。女学校、中学校の頃のあの「荒城の月」「やしの実」のメロディには青春時代の熱い思いがこみ上げてくる。音楽の妙である。又、人生を歌つた懐かしのメロディになるとそれぞれの人生、生き方と重なつて実際に味わい深い音楽となる。最後にあの「ふる里」を歌うと二人、三人とも感きわまって涙をほろりと落とす。この感動、心のゆさぶりはどんな人にも元気のおみやげをプレゼントしてくれる。そこが何とありがたい。

習字はゆつたりした時間がいい。これは誰もが気楽に参加できる代物ではない。手が汚れる。できばえが気になる……と。しかし楽しんでくださる人の沢山いることはうれしい。お元気な時はもと師範という方もいらっしゃる。

先生は大学で教育学の教鞭をとつていらっしゃる方で習字は子供の時からの道楽である。

がこれは音楽に無縁のただ、ただ歌うことの好きなヒバリ。でも、ただうぐいすでもなくカナリヤである。一方利用者側は「けやきの郷合唱団」のできそうな音楽性豊かな美声の集まりである。

童謡に始まり、コーラスは一度に20曲ほど歌う。小学唱歌を歌う時はみんな笑顔になる。幼な顔でゆつたり歌う。「あの友達は」と思い出もよみ返る。わらべうたになるとまりつき、手をつないだあの方たちが思いがつのる。

が薬なのだろう。音楽・習字とボランティアの手伝いをする私にも楽しい時間である。



施設リポート

◆澄水園ピアノ寄贈

昨年の12月、小平市在住の島村亨延様ご夫妻よりグランドピアノのご寄付を賜りました。ご主人はピアニスト、奥様はシンソンを唄われる素敵なカップルです。改めてお礼申し上げます。

(澄水園 中村)



澄水園 3階 集会室にて

氏名	現職種	採用日	勤続年数	勤続8年	勤続33年	勤続35年	法人本部参考事	法人本部参考事	伊藤光禧	中島辰男	戸石正子	太田徹	小川登代子	中村洋子	郡山三畠子	
南台病院事務員	南台病院介護職員	あかつき 介護職員	保全課主幹	法人本部 のぞみ作業所 施設長	昭和60年4月1日	昭和51年12月2日	昭和49年9月17日	昭和13年8月13日	昭和49年9月17日	太田徹	戸石正子	中島辰男	伊藤光禧	郡山三畠子	中村洋子	小川登代子
昭和56年2月1日	平成7年6月1日	昭和54年10月19日	昭和60年4月1日	昭和51年12月2日	平成13年8月13日	昭和49年9月17日	法人本部参考事	法人本部参考事	戸石正子	太田徹	中島辰男	伊藤光禧	郡山三畠子	中村洋子	南台病院	南台病院
勤続29年	勤続14年	勤続30年	勤続25年	勤続33年	勤続8年	勤続35年										

平成21年度 定年退職者

◆平成21年第3回理事会・評議員会

平成22年3月31日、平成21年度の定年退職者として次の7名の職員が黎明会を後にしました。皆さん黎明会の発展に寄与されました。これまでのご尽力に敬意を表し、こちらに紹介します。これからも健康に留意され素敵な第二の人生をお過ごし下さい。



会は理事長の挨拶で始まり、定期款の一部改正(案)、諸規程の一部改正(案)、平成21年度収支補正予算(案)について審議し、全体会一致で承認されました。

ありがとうございました

寄贈者ご芳名(順不同)

小川和夫様 * 今井忠子様 * あさや
け作業所父母会様 * 松本弘子様 *
澄水園保護者様 * 青木喜美代様 *
他匿名1件

☆金員

石郷岡幸男様 * 比留間和子様 *

平成21年12月・22年1月・2月

◆澄水園

保護者懇談会(24)(10)
保護者会(22)(8)
保護者懇談会(12)
保護者会(26)

黎明会の運営理念

一五つの目標

●黎明会が経営している 施設・病院●

一 利用者の立場で考え、心のこ
もったサービスを提供します。

二 保健・医療・福祉の総合機
能を活かし、質の高いサービス
を提供します。

三 地域と協働し、広く社会に
貢献します。

四 常に自らを磨き、活力ある職
場づくりに努めます。

五 福祉事業のパイオニアとして、
時代が求めるものを目指します。

東京福祉会様 * 島村亭延様 * 東
京都福利厚生事業団指定業者連絡
会様 * 他匿名1件

★ 物品

東京福祉会様 * 島村亭延様 * 東
京都福利厚生事業団指定業者連絡
会様 * 他匿名1件

行事予定

4月・5月・6月
() 内は日付

◆黎明寮

5月 日帰り旅行(20)
6月 一泊旅行(10)
4月 喫茶オアシス(13)
5月 喫茶オアシス(17)
6月 一泊旅行(19)
◆あかつき

6月

スポーツ大会
25(21)



◆やすらぎの園サービスセンター	◆やすらぎの園サービスセンター	◆やすらぎの園サービスセンター	◆やすらぎの園サービスセンター
5月 葛蒲湯・節句	5月 葛蒲湯・節句	5月 葛蒲湯・節句	5月 葛蒲湯・節句
◆のぞみ作業所	◆のぞみ作業所	◆のぞみ作業所	◆のぞみ作業所
6月 保護者運動会(中旬)	6月 保護者運動会(中旬)	6月 保護者運動会(中旬)	6月 保護者運動会(中旬)
◆けやきの郷	◆けやきの郷	◆けやきの郷	◆けやきの郷
4月 お花見(初旬)	4月 お花見(初旬)	4月 お花見(初旬)	4月 お花見(初旬)
◆南台病院	◆南台病院	◆南台病院	◆南台病院
4月 楽しみ会(11・24)	5月 楽しみ会(11・24)	6月 楽しみ会(11・24)	6月 楽しみ会(11・24)
◆熱海ゆとりあの郷	◆熱海ゆとりあの郷	◆熱海ゆとりあの郷	◆熱海ゆとりあの郷
4月 小旅行(お花見)	5月 森林浴ツアーエ	6月 法律相談	6月 法律相談

南台病院診療科目一覧表

内科	消化器内科	循環器内科	神経内科	整形外科
月から土の午前・午後	月から金の午前・午後	火木金の午前・月水土の午後	火木金の午前	火金の午前

神経科 木金の午前・午後(予約)
リハビリ科 月から金の午前
皮膚科 火金の午後

歯科 月末の午前・午後(予約)・土の午後

受付 午前 8時30分から11時30分
午後 1時から4時

042 (341) 7111

◆413-8566	◆413-8566	◆187-0034	◆187-0032	◆187-0001	◆187-0001
熱海ゆとりあの郷(有料老人ホーム)	静岡県熱海市西熱海町一一二四一 熱海ゆとりあの郷(有料老人ホーム)	東京都小平市大沼町一一八八四一二 のぞみ作業所(知的障害者授産施設)	東京都小平市小川町一三二八一山ハイツ一五 おがわ訪問看護ステーション	東京都小平市大沼町一一八八四一二 のぞみ作業所(知的障害者授産施設)	東京都小平市大沼町一一八八四一二 のぞみ作業所(知的障害者授産施設)
0557 (81) 5215	0557 (81) 5215	042 (341) 5656	042 (341) 5656	042 (341) 5656	042 (341) 5656
042 (341) 7111	042 (341) 7111	042 (341) 5711	042 (341) 5711	042 (341) 6611	042 (341) 6611
042 (341) 7111	042 (341) 7111	042 (341) 5711	042 (341) 5711	042 (341) 0336	042 (341) 0336